



なないろ

「鳥の目」「虫の目」「魚の目」

(幸せをめざして PART 32)

所長 小野 真

先日人間ドックで視力検査をしました。両眼ともに 1.0 まずまずの結果と安堵しています。物はしっかり見ることができるのですが、どのように見るのかが問われます。

「鳥の目」ということわざがあります。それに付随して「虫の目」と「魚の目」もあります。

まず、「鳥の目」とは、高い位置から全体を見回して見るということです。「虫の目」は、複眼です。つまり「近付いて」さまざまな角度から物事を見るということです。「魚の目」とは、潮の流れや干潮満潮という「流れ」を見るということです。

どんな業種の経営もこの3つの目の視点は、欠かせないのではないのでしょうか。「木を見て森を見ず」ではありませんが、細かい所だけにこだわってもそれぞれの仕事がどのようにかかわり合っていて、総合的に機能させればよいかの判断ができません。広く大ざっぱに見つめてもそれぞれの担当の進捗状況やどのように連携して取り組めば成果を上げられるかが分かりません。やはり、細かい部分と組織全体、そして時代の流れ、すなわち傾向という3つの目の視点を同時にみつめていくことが求められます。虹の家においても3つの目の視点をもってして、現在の福祉情勢の変化や業務の進捗状況を読み取り、利用者の皆さんの実態を踏まえて確実な舵取りを行っていかねばなりません。

したがって、3つの目の眼力の精度を高めることが事業所の目標を達成するためにはとても重要だということです。そのための大きな要因が保護者・地域の皆様からのご意見やアンケート結果や理事会・評議委員会等の方々から寄せられたご意見です。これがしっかりと情報として反映されることが、3つの目を開眼させる重要なキーワードとなります。みなさまから頂いたご意見、要望を丁寧に分析し、改善策を明確にして、今後の事業所経営に生かしていきます。

さらに、職員が利用者を支援していく際も3つの眼の視点を大切にしていきます。その成果として、利用者の皆さんが幸せに過ごしている姿に見て実感して頂くことと考えています。

余暇活動イオンモール新潟南へ行ってきました。

2組の皆さん 6月28日

1組皆さん 6月29日



イオンの醤油ラーメン最高に美味しいね。



玉ねぎの収穫をしました。

